

不登校になっている君たちへーその1

ひげぐま先生より

「登校拒否」と言われていた（否、今でもそう言っている人もいますが）1995年から、学校に行けない（行かない）小中高生の子ども達と向き合ってきた私ですが、その私が、今不登校になっている君たちに伝えたく、ここに書かせて頂きます。

1. 「同級生に、自分がどう見られているか、心配で学校に行けない」君へ

確かに35名のクラスで、毎日、毎日35名の級友が登校し、授業を受けたり、みんな運動したり、歌ったり、遊んだりしてしていたところ、ある一人の級友が学校を休む。「風邪かな？」と隣の子が思う。でも、その子が3日連続して休むと、隣の子は勿論、周りの同じ班の子たちが、「ねえ、学校に帰りに寄ってく？」と話し合う。その子の欠席が1週間、10日と続くと、同じ班の子たち以外の級友たちまでも、「どうしたんだろう？」と心配し出す。クラスに1人は不登校になっていると言われる今は、1ヶ月以上欠席が続くと、級友たちは「何らかの理由で学校に来れないんだな」と思う程度で、君たちが思うほど気に留めていないようです。勿論、年頃の君たちだから、秘かに君に好意を寄せている彼（彼女）は別だよ。君の欠席がすごく気になっていると思います。

ところが、君が久し振り登校し、35席、一つも空きがなく埋ったら、「ああ、よかった。みんな、揃った！」と級友たちは安心する。秘かに君を想う彼（彼女）以外は、今はそんなもんなんです。勿論、「どうしてたのかな？」って思う級友はいるかもしれないが、君のことを思い、それは口にしないんです。みんな、優しいんだよ。それより、35人、みんな一緒に学校生活を送って、楽しい思い出を作りたいと思っているんだよ。

だから、君を待つクラスに戻ろう！

だから、別室登校からでなく、直接クラスに行って授業を受けても、気にすることは何もないんです。

2. 「人と馴染めない、関り辛さを感じている」君へ

人間は、社会性を持った生き物です。周りの人達から承認され、自己実現を目指し、同世代の仲間達と群れ集い、成長していく生き物です。だからこそ、承認欲求を満たされず自己が不安定で、「人と馴染めない、関り辛さを感じている」君たちは、悩んでいるんです。それだけ、君たちは自分をしっかり見つめているんです。その自己愛は、他人愛にも繋がります。

でも、君たちにも、社会性という本能があるから、それを阻害しているものを除けば、それを克服できます。

3. 「休んだ分だけ勉強しなければならない」と思っている君へ

私達、塾屋は学校で1週間学ぶ授業を僅か1時間で教える技術を売っています。

君たちは、週休2日、祝日や春夏冬休みを抜けば、1年に10ヶ月程学校で授業を受けます。45分週2時間授業があるとして、10ヶ月で60時間の授業時間になります。しかし、45分の授業は、前回の授業の復習（本授業の導入）から本授業の展開に、生徒の学習活動、授業の振り返り（まとめ・宿題提示）という構成となっており、実授業時間はその2/3としても40時間です。

東進中学NETの授業は、国語・理科・社会の1年間分は、45分授業×12回×4講座=36時間です。学校の実授業時間とほぼ同じです。東進は45分×2コマで1時限の授業ですから、週5日1日1時限（90分）の授業を受ければ、1ヶ月と4日で学校の1年間の授業を受けられます。英語・数学は、その倍の45分授業×12回×8講座=72時間ですから、2ヶ月と8日で1年間の授業を受けられます。

決して「休んだ分だけ勉強しなければならない」ことはないんです。安心して下さい。

私達、塾屋は、君たちの学習を応援します！